

小兒の顔貌

醫學博士 三輪信太郎

近來幼稚園が盛になつて來て子供を預る人がよく衛生の方面や發育上の注意をするやうになつてよい點も多いが又陰の方のわるい點も少くはない。目下陰の點として世間からあげられて居る事は幼稚園から諸種の病氣を家庭に持ち込む事である。勿論近頃は幼稚園でも醫者と關係を持つて体格検査もし幼兒の病氣に際しては相當に行届いた手當もするがなほ學術品行共に欠點なく子供を尊重し子供に興味を持つやうな醫者を顧問とする必要がある。

然ういふ様な熟練者ならば子供の外貌を一見してその病氣を察する事が出来るし一度衣服を解いてその体を見たならば非常に重い病患で徴候の陰微なものとはとにかく大抵は聽診機を用ひないでも察する事が出来るであらうと思ふ故に熟練した醫者に一週に一度づゝでも見てもらう事にしたならば

家庭の病を幼稚園に持つて來る事もないし幼稚園の病氣を家庭に移す事もなくなつて幼稚園がかけのない安心なものとなるであらう。

私とても僅十年來の醫者であるから熟練したものとはいはれないが大概の病は外貌ばかりですぐにわかる勿論病は外貌ばかりでは精密な事はわかりかねるけれども多少わかる處の外表に就いて御話を致しませう、

○顔面

第一に現はれるのは顔である

初生兒は表情なくたいポツとして春の海の如く風なき川の面の如く極めて無心な外貌をして居る

これが生長するに従つて漸次に種々の表情をす

るやうになる(洋書中の寫眞参照)

表情に立ち入る前に顔色に就て述べやう

△顔色

顔色には蒼白色、黄淡色、紅色がある

蒼白色——貧血に關する氣病に多い、即ち疲勞

結核十二支腸蟲營養不足等のものに

ある

黄淡色

初生兒黄淡として生後數日頃黄淡色になりそれがすぐ直るのが普通であるけれども體質の弱いもの先天的梅毒性を持つて生れた子供は長く續く事があるその他には肝臓に内腫の出来た時十二支腸の部にカタルを生じた時などに黄淡を起す事がある
充血、發熱、羞恥(情の關係)その他病氣でいんと猩紅熱は全身の紅潮を生ず又皮膚の表面が紅く粟立つのはハンカなどである、
顔が一時紅くなつて又蒼くなるのは情の關係もあるけれども病氣では血管運動神經の障害、結核性腦膜炎は瘦せて居ても顔ばかりはよい色の事がある、

△顔貌

顔のひくみは枕をはずすと腫れるものがある病氣では百日咳、咽喉カタル、は上眼瞼が腫れる

るのである、

百日咳では時に咳のはげしい結果眼球の結膜が充血し又出血する事がある

その他顔の腫れるのは心臓の瓣膜病、先天的心臓の疾患、感胃性腎臓炎猩紅熱などである

此中幼稚園で注意すべきは感胃性腎臓炎である
獅子顔(癩病で瘤ちつたやうな顔)ヒボクラテ

ス時代顔(古き時代に悟つた人の顔)死に頻した人の顔の如き極端のものは取除けて次に表情に就いて説しませう

△表情

○痛みの顔 痛みを制止せざるに發表する場合耳痛(中耳炎)尿管の痛、腹痛、尿のつまりし時などの表情は

目をしばた、き額に皺をよせ涙ぐみ顔を紅くして汗を出し手足を動かして泣きさけび又は慄へるのである

○痛を我慢する顔

眼瞼を開放して眉をよせ口を半閉ぢ口角をよせ小聲に泣き時に溜息をもらしなどする、

これらは肺炎、肋膜炎、腹膜炎の病から來るものである

○恐怖の顔

恐怖呼吸困難夜驚(ねぼける)の時に起るのでさ

ういふ時には

小鼻を動かし口唇にチアイゼ(紫色)即血行

わしき時の如き様)を呈す、

病氣では心臓疾患、猩紅熱、重症ジフテリーを

起した時にかういふ顔つきをする、

○痙攣の顔

破傷風初生兒の破傷風は俗にホウツキ虫とて全

身痙攣を起す、これは産婆の消毒が不充分なり

し爲めに生するのである

普通破傷風は全身に痙攣を起し口がさかれなく

なり飲食物の嚥下が出来なくなるのであるその

原因は微細の傷から破傷風菌が入つて起るので

その時には顔がお面のやうになる

腦の疾患の時にも此顔即俗にいふ苦笑をする

ペタニーの病氣でもこのやうな顔つきをするか

ら注意すべきである

○痴放状の顔貌(馬鹿の類)
以上顔つきに就ての大体である

△口唇に就いて

口唇の周圍がチアノーゼ(藍紅色)となる事があ

るこれは先天性心臓疾患に原因するもので運動

の後殊に著明になるのである又アンチピリン

中毒から來る

△耳の邊に就て

外聴道ブルンケルロースが出來ると耳の前

がコンモリと腫れる事がある又耳ダレで濕潤す

ると淋沍線耳下線が腫れる事がある耳下線がひ

どく腫れると紅くなるさまでならずとも耳の

後まで腫れて押すと痛む事があるそれは副症と

して起る事があるが又耳下線炎のみ起る事もあ

るこれはさして注意を要しないが耳ダレはよく

注意しないと化膿性腦膜炎を起す事もある

△頸部

目につく變化は頸を傾ける事であるこれはキヨ

ーサ乳頭筋の炎症を起した時又子供が生れる時

に分娩困難で機械で壓迫された爲に頸が傾いて

しまふ事がある
咽後膿瘍いんごうのうしやうといつて咽頭の後に膿がたまつて外又
は咽喉いんこうの方に流出りゅうしゅつする事があるこれはパヒフに
似て咳込む事がある

パヒフにはデフテリ一性の義膜ぎまくが咽喉いんこうに出来て
呼吸困難ききうこんなんになり吠えるやうな咳せきをして鼻翼びよくをう
ごかし胸廓きょうかくのミゾオチがへこみ鎖骨さこつこつ上下ノドボ
トケの下が引込むのである

△咳

咳には

吠える咳せき(一番危し)

乾いた咳せき(刺激性デフテリア肋膜炎咽喉
の障害に起る)

濕つた咳せき(氣管支カタル肺炎の時の如き
ゼロくしたせき)

癭攣性けいれんせいのせき(百日咳)

その他に喉頭カタルくせうとうかたるとでも咳が出るのである、
パヒフ即チフテリちふてりは始めは咳が出て進んで來
ると咽頭に義膜ぎまくが出来る

◎女の壽命は漸々縮る (富士川ドクトル)

子供は生れて二、三、四歳の間を充實期と云つて
横に延びる時期、五、六、七歳を伸長期と云つて
豎に伸びる時期としてあるが、成熟期になると女
子の方が男子よりも非常に速い、それから生後一
年位の間に死亡する者は女の子よりも男の子の方
が非常に多い、然し其れ以後は女の子の方が男の
子よりも病氣に多く罹り易い、また女の子の脳は
生後七歳で丁度四倍大に發達するが、男の子は十
三歳になつて初めて四倍大になる、それから長命
な者も百歳以上になると男よりも女の方が多し然
し是は女は男よりも身体が丈夫に出来て居るから
では決して無い、女の身体は男子よりは確かに弱
いのであるがそれが能く長壽を保ち得たのは、従
來女の周圍の社會が比較的靜穩であつて、命を縮
める様な原因になる事が少なかつたからである。
であるから今日以後、婦人も男子と同様に社會の
表面に立つて働く様になると、勢ひ婦人の壽命は
追々短縮するに違ひ無いと、思ふ西洋でも婦人を
郵便、電信、電話等に使用する様になつて以來婦
人の病人が非常に増加したので、今日では問題に
なつて居る。(大日本女子教育會總會に於て「婦人
の身体」)